

■川越親愛センター(令和元年度事業報告)

令和元年度経営方針

障害者総合支援法に規定する障害者支援施設として、積極的に障害施策の情報収集を行い、基準を満たす加算申請を行い安定した収入を目指す。利用者の生活の充実を図り、地域における福祉施設としての役割を果たす。

人材育成については、利用者の人権を尊重できる倫理観の高い職員の育成を図り、利用者、家族、地域から信頼が得られる安全で安心な質の高いサービスを提供する。

また、老朽化してきた大型機器の入替や、40年経過している建物の建替えを含めた施設整備計画の検討と準備を進めていく。

(1)施設入所支援 主に夜間帯の日常生活全般の支援を行う。

(2)生活介護事業 軽作業や日中活動等のサービスを提供する。

(3)短期入所事業・日中一時支援事業 在宅の利用者を対象に地域における福祉施設としての役割を意識し、家族が安心してサービスを受けられるようサービスの質の向上を目指す。

令和元年度取り組み

1 利用者支援

◆具体的な取り組み内容 取り組み方法・手段	実績
◆ 個別支援計画に基づく支援 ① 一人ひとりの思いや価値観を大切に、個人や少数単位での支援を行う。 ② 日中活動や買い物、余暇支援を行い、積極的に外出の機会を提供する。 ③ 意思を尊重した意思決定ができていないか、会議等で確認する。	① 個別支援計画に基づき、ニーズの高い小グループでの買い物や余暇支援の提供を継続している。 ② 全体行事は、親愛会40周年記念納涼祭の開催や、利用者の希望に基づいて旅行を実施した。 ③ 毎月の支援会議等で、意思を尊重した支援が行われているか随時確認を行った。
◆ 軽作業・余暇支援を通じて充実感が得られる日課作り 支援員で役割分担を決め、軽作業や余暇支援の充実を進める。	作業班は軽作業を中心に 利用者の希望から6班編成で活動を継続している。 余暇支援は、クラブ活動を中心に活動をした。散歩や運動面では身体機能の維持につながるように活動を継続している。創作活動としての作品は、2月の支援説明会で作品展として発表の場を設けた。 また、創作活動を積極的に行っている、県内社会福祉法人の見学を10月に実施した。今後の創作活動に活かしていきたい。
◆ 高齢者の身体機能の情報を把握、共有し連携した支援 ① 利用者の健康状態に応じて随時会議を開催し状況を共有する。	① 利用者の健康状態の把握に努めた。健康状態の変化が見られた時は看護師を中心に情報を共有し、支援を行った。

<p>② 介護技術等の支援技術を習得する。</p>	<p>入所者1名が介護環境の整った施設を希望したため、法人外の高齢者施設への転居の支援を行った。</p> <p>② 常時車椅子利用の方の入浴については、法人内他事業所の介護用シャワー入浴設備の技術を習得し使用した。</p>
---------------------------	---

2 人材育成

<p>◆具体的な取り組み内容 取り組み方法・手段</p>	<p>実績</p>
<p>◆ 外部研修への参加</p> <p>① キャリアパス制度に則し、必要な業務教育の一環として職務に必要な研修を受講する。</p> <p>② 障がい特性に対応できる支援技術の習得に努め、専門性を高める。</p>	<p>外部研修に積極的に参加をした。</p> <p>① 埼玉県社会福祉協議会等主催研修 26名 強度行動障害基礎研修 6名 実践研修 3名</p> <p>② 法人内食事栄養委員会主催 摂食嚥下研修 4名</p>
<p>◆ 職員の育成指導</p> <p>主任、リーダーを中心にきめ細やかな職員指導を行い、成長が実感できる環境を作る。</p>	<p>職員育成と情報共有のため、職員 5～6 名の小グループによるチーム制を引き続き行った。</p> <p>新任職員には OJT 担当が 6 か月間個別の指導助言を行った。</p>

3 施設設備管理

<p>◆具体的な取り組み内容 取り組み方法・手段</p>	<p>実績</p>
<p>◆ 利用者の身体的変化に対応した備品整備</p> <p>快適で安全な生活ができるように、身体的機能に配慮した備品を整備する。</p>	<p>予定していた施設備品を整備した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厨房冷凍冷蔵庫 2,775,600 円 ・エアコン(3台) 308,000 円 ・屋外排水清掃 259,000 円
<p>◆ 設備の老朽化にともなう必要な整備</p> <p>居住環境に留意し適切な整備を行うとともに、業者による点検、整備を行う。</p>	<p>老朽化に伴い急遽機能不全となり必要となった備品の整備を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大浴槽給湯器 308,000 円 ・厨房冷蔵庫 410,400 円 ・肥料棟解体 1,090,800 円 ・物置設置 507,600 円 ・相談棟外階段防水 1,500,000 円 <p>故障等のリスクが減り、居住環境の安全性が保たれた。</p>
<p>◆ 水道光熱水費の削減</p> <p>節電、節水に努める。</p>	<p>猛暑のためにあまり節電に努めることはできなかったが、エアコン・扇風機やサーキュレーターを併用するなど工夫した。</p>

4 危機管理

◆具体的な取り組み内容 取り組み方法・手段	実績
<p>◆ 防災計画の策定 見直し</p> <p>① 安否確認情報システムの導入を検討する。</p> <p>② 飲料水、食料品、生活物資の確認と入替を行う。</p>	<p>① 安否確認情報システムについては、検討中である。</p> <p>② 防災備蓄は定時入替を実施した。今後は事業継続としての備品確保が課題である。</p>
<p>◆ 防災・防火訓練</p> <p>① 避難訓練を年4回実施し、うち1回は夜間想定訓練とする。</p> <p>② 応急救護講習、水消火器訓練を行う。</p>	<p>① 避難訓練は計画通り5・9・10・3月に実施した。</p> <p>② 応急救護講習を5月、水消火器訓練を9月に実施した。</p>
<p>◆ 虐待防止体制と意識の向上</p> <p>施設内では虐待防止研修を行い職員の意識改善を図る。外部研修へも積極的に参加する。</p>	<p>常勤職員は、セルフチェックリストの記入と実際の支援現場における内部研修を実施し、非常勤職員はセルフチェックリストを使用し研修を行った。研修を実施することで、自分たちの支援の振り返り、今後の支援力・支援の質を高めていきたい。</p>

5 その他

◆具体的な取り組み内容 取り組み方法・手段	実績
<p>◆ 地域社会との共生</p> <p>① 地域貢献を念頭に地域との連携を図ることで福祉拠点としての役割を果たす。</p> <p>② 実習生、ボランティアを積極的に受け入れ、障がい者の理解を深めてもらい、後進の育成に努める。</p>	<p>① 自治会活動としてごみゼロ運動や自治会主催の納涼祭に参加した。また、台風19号による浸水被害施設利用者を2名11月～2月に受け入れた。</p> <p>② 実習生 36名 中学校 社会体験事業 2名 社会貢献活動 川越市職員研修 民間企業職員研修を受け入れた。</p>
<p>◆ 情報公開</p> <p>ホームページへの情報掲載、事業報告等の開示、事業所見学者の受け入れを行う。</p>	<p>余暇支援、行事等の様子をホームページへ掲載した。</p>

■ 川越親愛センター（令和元年度事業報告 資料）

令和2年3月31日現在

①利用者状況

(1)障害支援区分(名)

支援区分	入所			通所		
	男	女	計	男	女	計
区分6	20	11	31	9	5	14
区分5	3	2	5	5	3	8
区分4	1	3	4	1	1	2
区分3	0	0	0	1	0	1
区分2	0	0	0	0	0	0
区分1	0	0	0	0	0	0
合計	24	16	40	16	9	25

(2)年齢構成(名)

区分 種別	性別	20歳未 満	20歳以 上～30 歳未満	30歳以 上～40 歳未満	40歳以 上～50 歳未満	50歳以 上～60 歳未満	60歳以 上	平均 (歳)
		(入所)	男	0	1	2	6	
	女	0	0	2	7	5	2	49.2
	計	0	1	4	13	13	9	51.2
(通所)	男	0	5	3	3	1	4	42.2
	女	0	2	1	3	0	3	46.6
	計	0	7	4	6	1	7	43.8

(3)通院・入院状況（回）

区分	科目	精神 科	内科	外科	眼科	耳 鼻 科	皮膚 科	整形 外科	婦人 科	歯科	その 他	計
	入所		22	36	13	3	2	7	20	2	139	
通所		3	22	2	2	0	0	0	0	2	0	31
入院	件	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	日	0	0	0	0	0	0	16	0	0	0	16

②事業所状況

(1)各事業の実施状況

事業名	定員(名)	平均利用人数(名)	利用率(%)
施設入所支援	40	37.2	93.1
生活介護	60	57.4	95.7
短期入所	3	1.0	33.3
日中一時支援	なし	2.25	

(2)ボランティアの受け入れ状況

受け入れ	延べ人数(名)	受入事業	延べ人数(名)
余暇・趣味	199	その他(理美容・施設体験ボラ)	31
行事活動(外出引率等)	16		
環境整備(掃除・洗濯等)	75	合計	321

(3)実習生・研修生の受け入れ

区分	実習校等(か所)	人数(名)	延べ日数(日)
実習生	13	36	447

※台風19号による被災利用者2名は上記報告数から除外しています。

なお、11月～2月の期間で、施設入所利用日数136日、生活介護利用日数107日利用されています。